D グループの発表に関する質疑応答

D の文献；

中嶋哲也『経済発展と格差—簡単な家計モデルによる比較—』現代図書 2015年

A から；終章の1に出てくる「(初期の資本と所得の)境界値」の求め方について

→第1章の図1(P7)の k^* が境界値。初期の資本が k^* よりも大きい時はその後の資本と所得は継続的に増加し、 k^* よりも小さい時はそれは減り続ける。ただし、この本では、実際の境界値の金額は示していない。

B から；終章で、家計間の格差拡大を修正する方法は、法人税率または資産所得税率を高めることとあるが、富裕な家計はタックスヘイブンに逃げてしまうのではないか。ほかの政策はないか？

→低所得者に対して、教育費を軽減したり、税金から分配したりする。

C から；税金を各家計に移転する政策の具体例はあるのか。

→低所得者が負担する教育費についてはできることがある(上記のように)。